

第150回

2022. 7. 25

企業経営動向調査

公益財団法人 徳島経済研究所

調査目的	徳島県内の企業動向を的確に把握すること
対象企業	県内主要企業 283社、回答企業 183社、回答率 64.7%
調査対象期間	2022年4～6月期の実績見込み、7～9月期および10～12月期の予想
調査時点	2022年6月上旬～下旬

要約

2022年4～6月期の業況判断(季節調整済)は悪化 先行き7～9月期は一段と悪化する一方、10～12月期は改善する見通し

県内企業(全産業)経営動向調査結果によれば、業況判断 BSI (季節調整済)について、2022年1～3月期と比べ2022年4～6月期(前期→当期: $\Delta 12 \rightarrow \Delta 16$ ($\Delta 4$ ポイント))は悪化した。なお、前回調査時の予想($\Delta 3$)と比べても悪化している。業種別では、製造業(同: $\Delta 16 \rightarrow \Delta 25$)は悪化した。一方、非製造業(同: $\Delta 10 \rightarrow \Delta 11$)はほぼ横ばいで、4月以降は新型コロナウイルス(以下、コロナ)の感染状況が比較的落ち着いていたことで外出機会が増加し、プラスに影響したと考えられる。総じてみると、コロナ禍の継続に加え、不安定な国際情勢や円安の進行、さらに原材料およびエネルギーの価格上昇などがもたらしている不透明感が影響している。また、売上げ BSI (同: $6 \rightarrow \Delta 1$)、収益 BSI (同: $\Delta 6 \rightarrow \Delta 12$)も悪化した。

先行きの業況判断 BSI は7～9月期予想は $\Delta 26$ と一段と悪化するも、続く10～12月期予想は7と改善に転じる見通し。当面は上記の不透明感が拭えず消極的な姿勢が優位となっているものの、コロナ対策としての行動制限などが徐々に緩和され、イベント等が開催される動きなどを受け、年末にかけては持ち直しへの期待が大きい見通しとなっている。

2022年4～6月期の設備投資は、実施企業の比率は前年同期と比べ0.6ポイント上昇した一方、総投資額は約199億円で同32.1%減少した。業種別では、製造業が同34.5%減、非製造業が同8.9%増と、製造業の減少幅が大きかった。先行き7～9月期の計画は、実施企業の比率は前年同期より4.5ポイント低下、総投資額は約250億円で同25.0%減、続く10～12月期は、約168億円で同81.3%減と3期連続でマイナスとなる見込み。

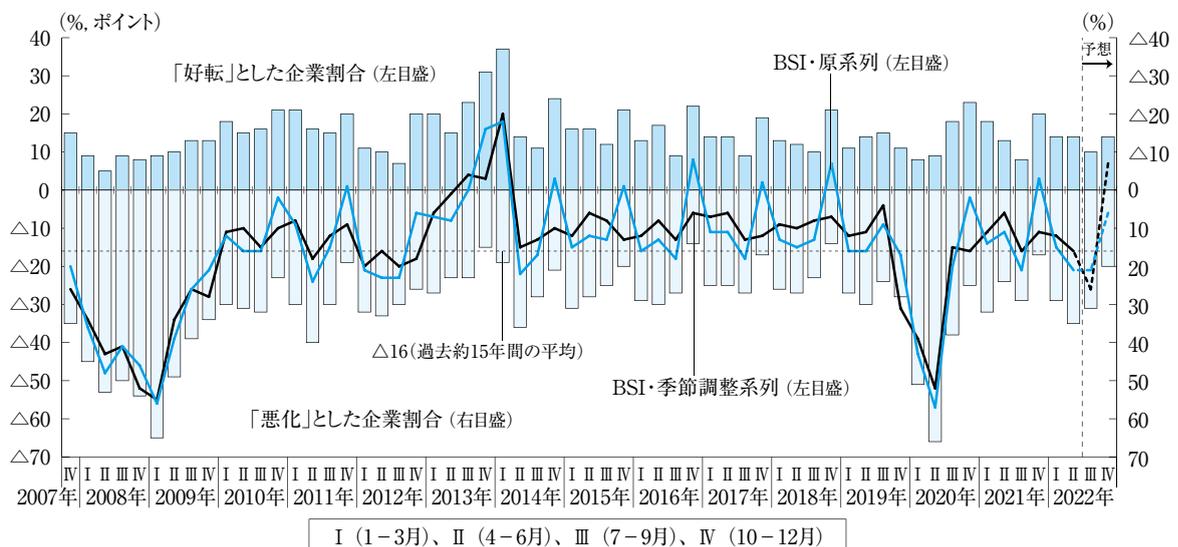
なお、今後1年間の設備投資意欲については、前期と比べ、製造業はやや改善しているものの、非製造業は大幅に悪化している。

1. 概況
(全業種)

【2022年4～6月期の実績見込み】 業況判断は前期から悪化

県内企業の当期(2022年4～6月期、以下同じ)のBSI(業況が「好転(増加)」と回答した企業割合から「悪化(減少)」と回答した企業割合を引いた数値(季節調整済))をみると、前期と比べ、業況判断BSI(△12→△16)、売上げBSI(6→△1)、収益BSI(△6→△12)とすべての項目で悪化した。コロナ禍の継続に加え、不安定な国際情勢や円安の進行、さらに原材料およびエネルギーの価格上昇などがもたらしている不透明感が影響している。

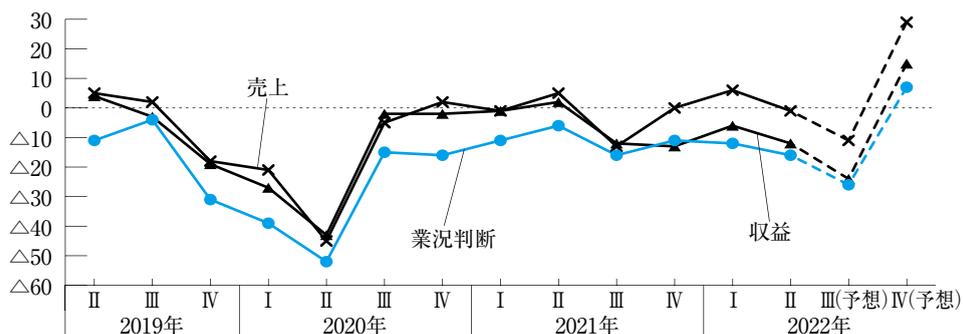
企業経営者による業況判断



注：季節調整は、米国センサス局開発の X-12-ARIMA により実施

【7～9月期・10～12月期の予想】 業況判断は7～9月期は一段と悪化するも、10～12月期は改善する見通し
2022年7～9月期の予想は、4～6月期に比べ、業況判断BSI(△16→△26)、売上げBSI

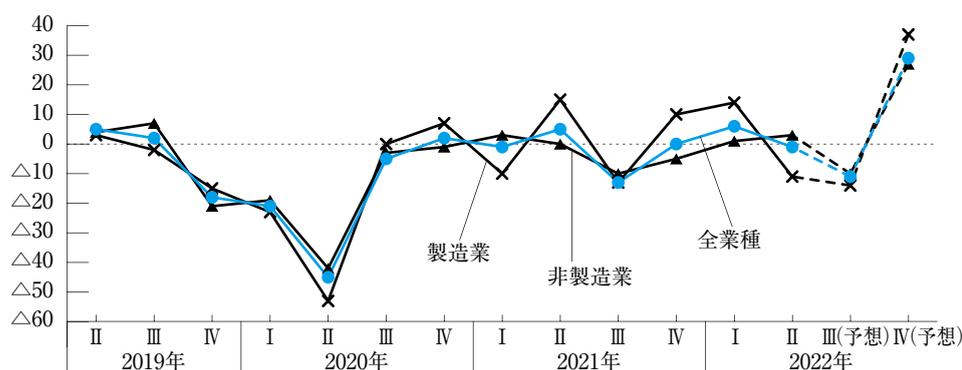
全業種BSI



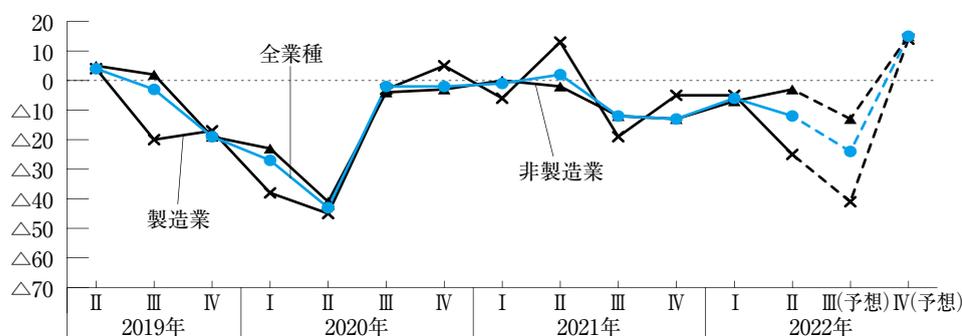
($\Delta 1 \rightarrow \Delta 11$)、収益 BSI ($\Delta 12 \rightarrow \Delta 24$)すべての項目で悪化の見通しである。なお、この業況判断 BSI は、過去約15年(2007年7~9月期以降)の平均($\Delta 16$)と比べても悪化している。続く10~12月期は、業況判断 BSI ($\Delta 26 \rightarrow 7$)、売上げ BSI ($\Delta 11 \rightarrow 29$)、収益 BSI ($\Delta 24 \rightarrow 15$)と大幅に改善し、プラスに転じる見通し。

当面は既述の不透明感が拭えず消極的な姿勢が優位となっているものの、コロナ対策としての行動制限などが徐々に緩和され、イベント等が開催される動きなどを受け、年末にかけては持ち直しへの期待が大きい見通しとなっている。

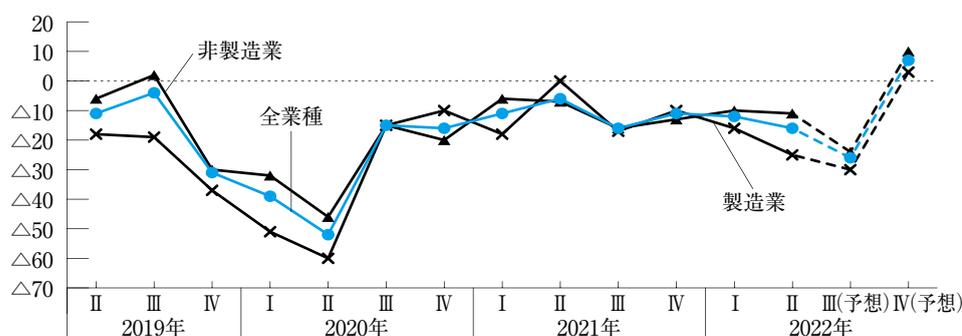
(1) 売上げBSI



(2) 収益BSI



(3) 業況BSI



2. 製造業の動向

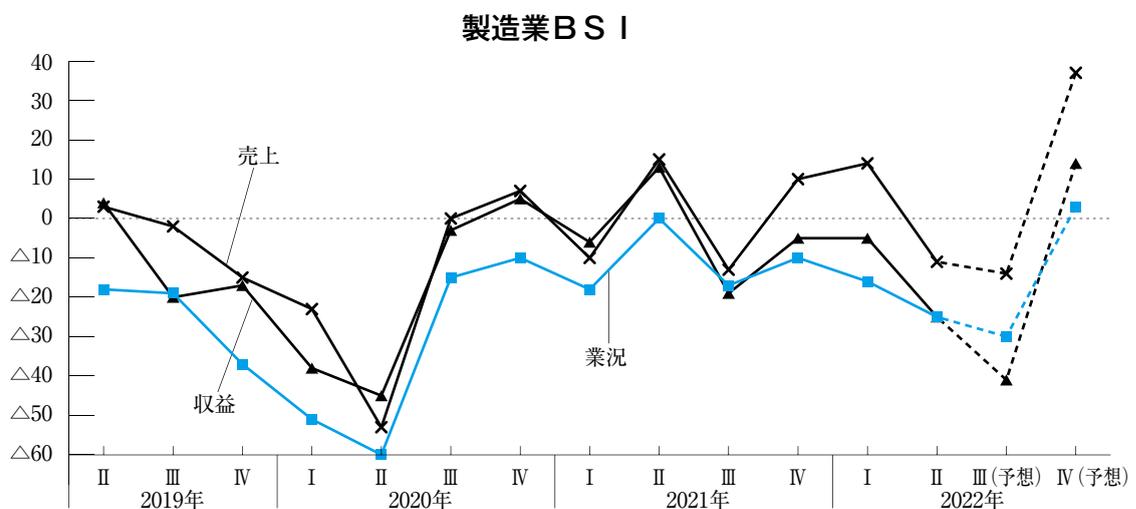
【製造業の現状】 業況判断は大幅に悪化

当期は、前期と比べ、業況判断 BSI ($\Delta 16 \rightarrow \Delta 25$)、売上げ BSI ($14 \rightarrow \Delta 11$)、収益 BSI ($\Delta 5 \rightarrow \Delta 25$)は大幅に悪化した。業況判断 BSI を業種別にみると、多くの業種で悪化しており、前期にも影響していた円安の進行や原材料およびエネルギーの価格上昇、不安定な国際情勢などがより一層深刻さを増していると考えられる。

【先 行 き】 業況判断は7～9月期は悪化するも、10～12月期は改善の見通し

2022年7～9月期の予想をみると、当期に比べ、業況判断 BSI ($\Delta 25 \rightarrow \Delta 30$)、売上げ BSI ($\Delta 11 \rightarrow \Delta 14$)は悪化、収益 BSI ($\Delta 25 \rightarrow \Delta 41$)は大幅な悪化となっている。続く10～12月期の予想は、7～9月期に比べ、業況判断 BSI ($\Delta 30 \rightarrow 3$)、売上げ BSI ($\Delta 14 \rightarrow 37$)、収益 BSI ($\Delta 41 \rightarrow 14$)とすべての項目で大幅に改善する見通し。

業況判断 BSI については、原材料およびエネルギー価格の上昇や半導体不足などの影響が引き続きみられるほか、円安の進行、国際情勢悪化に伴う経済活動の停滞などの懸念材料が根強いことを反映している。一方で、コロナ対策としての行動規制の緩和への期待感などから、年末にかけては先行きを楽観視する姿勢も見受けられる。



3. 非製造業の動向

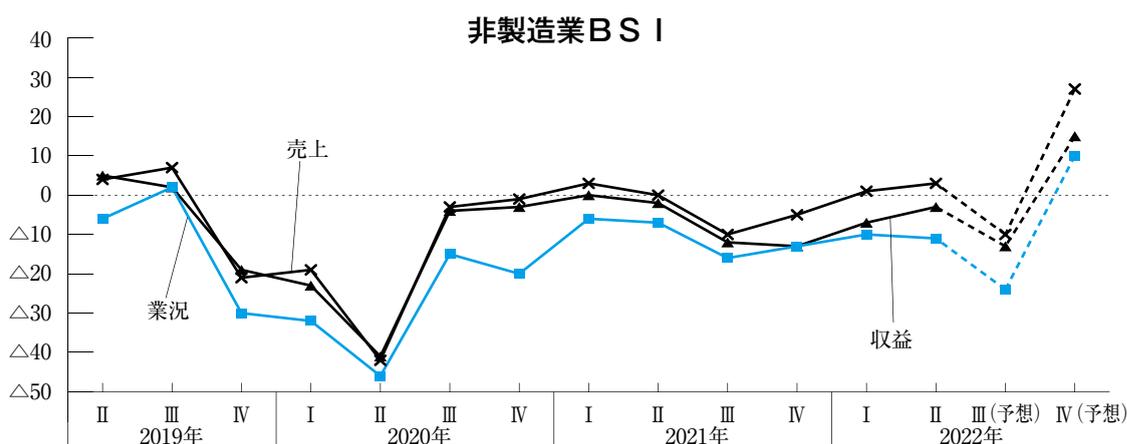
【非製造業の現状】 業況判断はほぼ横ばい

当期は、前期に比べ、売上げ BSI ($1 \rightarrow 3$)、収益 BSI ($\Delta 7 \rightarrow \Delta 3$)はともにやや改善した一方、業況判断 BSI ($\Delta 10 \rightarrow \Delta 11$)はほぼ横ばいであった。業況判断 BSI については、コロナ対策としての行動制限などが徐々に緩和されており、人出も戻りつつあることが影響している。

【先 行 き】 業況判断は、7～9月期は悪化するも、10～12月期は改善に転じる見通し

2022年7～9月期以降の予想をみると、先行きの推移（当期→7～9月期→10～12月期）は、業況判断BSI（△11→△24→10）、売上げBSI（3→△10→27）、収益BSI（△3→△13→15）と7～9月期に悪化するも、10～12月期には大幅に改善し、プラスに転じる見通し。

業況判断BSIについては、食料品やエネルギーの価格上昇などによる不透明感が影響している一方で、年末にかけてはコロナ対策としての行動規制が緩和され、消費喚起されることへの期待感が現れている。

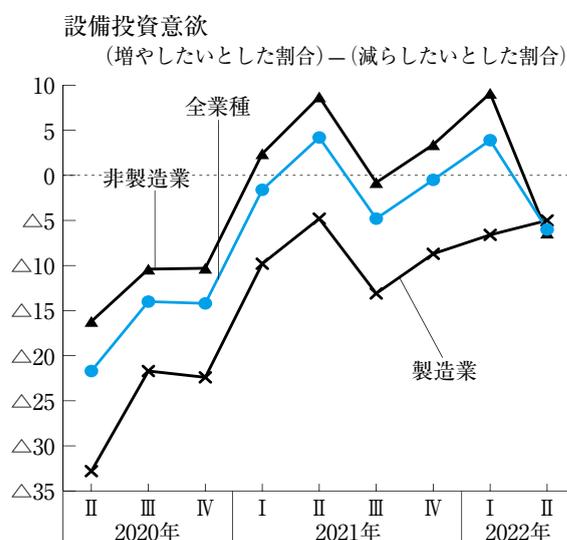


4. 設備投資の動向

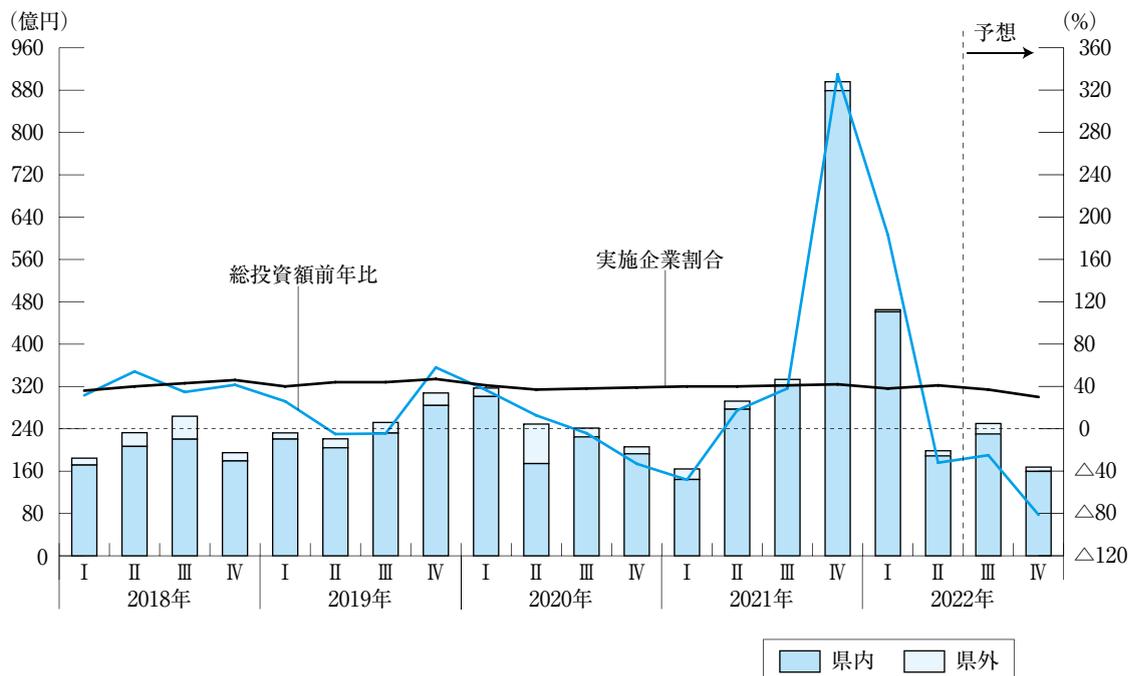
回答企業(全産業)のうち、2022年4～6月期において1百万円以上の設備投資(新リース契約を含む)を実施した企業は全体の41.0%、総投資額は198億55百万円(県内投資額は188億86百万円)であった。前年同期と比較すると、総投資額は全体で32.1%減(前期比57.3%減)で、内訳は製造業が同34.5%減、非製造業が同8.9%増であった。なお、実施企業の割合は、0.6ポイント上昇した。

先行きの計画をみると、7～9月期の実施企業割合は36.6%で前年同期より4.5ポイント低下、総投資額は約250億円で前年同期比25.0%減、続く10～12月期の総投資額は約168億円で同81.3%減となる見込み。

今後1年間の設備投資意欲(全産業)は、「増やしたい」が10.4%、「減らしたい」が16.4%、「ほぼ変わらない」が73.2%であった。「増やしたい」から「減らしたい」を差し引いた比率は、全産業で△6.0ポイント(前期3.9ポイント)とマイナスに転じた。業種別では、製造業が△5.0ポイント(同△6.6ポイント)とやや上昇した一方、非製造業は△6.4ポイント(同9.1ポイント)と大幅に低下している。



設備投資額（支払ベース）



製造業

当期に1百万円以上の設備投資を実施した企業の割合は、62.7%で前年同期より14.3ポイント上昇した。総投資額は、181億2百万円（前年同期276億21百万円）で、大手の化学、電気機械などで減少したことを主因に前年同期比34.5%減少となった。うち、県内投資額は171億78百万円（同264億87百万円）であった。

設備投資を目的別にみると、前期と比べ、「既存設備の補修更新」、「合理化・省力化」、「研究開発」の比率が低下した一方、「増産・拡販のため」、「環境対策」などで上昇した。

先行きの計画をみると、7～9月期の総投資額は約231億円で前年同期比23.1%減、続く10～12月期は約134億円で同84.6%減の見込み。

今後1年間の投資意欲は、「増やしたい」とする企業割合（15.3%）が「減らしたい」（20.3%）を5.0ポイント下回り、10期連続のマイナスとなった。

非製造業

当期に1百万円以上の設備投資を実施した企業の割合は、30.6%で前年同期より5.9ポイント低下した。総投資額は17億53百万円（前年同期16億10百万円）で、建設業や小売業、サービス業などで増加がみられ、同8.9%増となった。県内投資額は17億8百万円（同12億17百万円）となっている。

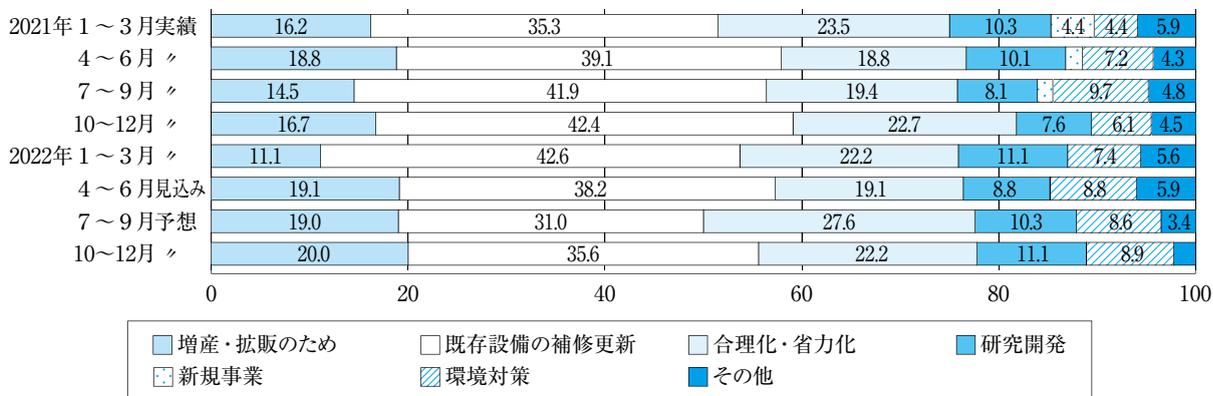
目的別にみると、前期と比べ、「新規事業」、「研究開発」、「拡販のため」の比率が低下した一方、「既存設備の補修更新」、「店舗等の移転」、「合理化・省力化」などで上昇した。

先行きの計画をみると、7～9月期の総投資額は約19億円で前年同期比42.5%減、続く10～12月期は約33億円で同29.0%増となる見込み。

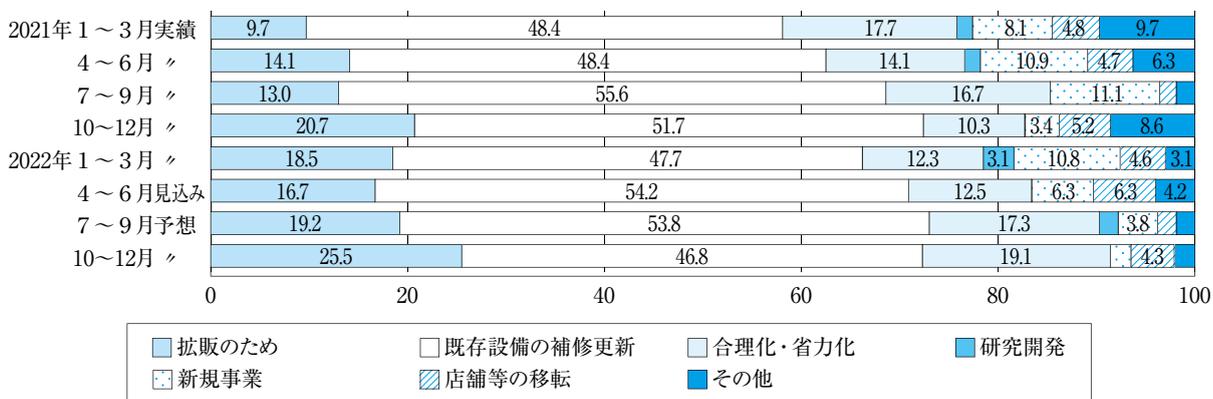
今後1年間の投資意欲は、「増やしたい」とする企業割合（8.1%）が「減らしたい」（14.5%）を6.4ポイント下回り、3期連ぶりにマイナスとなった。

設備投資の目的

(1) 製造業



(2) 製造業



(複数回答)

回答企業の概要

		(社)		
		総数	製造業	非製造業
資本金規模	1百万円未満	0	0	0
	1～3百万円未満	0	0	0
	3～5百万円未満	2	0	2
	5～10百万円未満	5	2	3
	10～50百万円未満	107	30	77
	50～1億円未満	42	17	25
	1億円以上	27	10	17
	計	183	59	124
従業員数	10人未満	19	3	16
	10～30人未満	37	11	26
	30～50人未満	34	11	23
	50～100人未満	38	9	29
	100～200人未満	21	6	15
	200～300人未満	18	9	9
	300～	16	10	6
計	183	59	124	

		(社)	
		業種	回答
製造業	食料品		10
	繊維製品		2
	木材・木製品		8
	パルプ・紙		3
	化学工業		8
	窯業・土石		3
	機械・金属		17
	その他		8
	計		59
非製造業	建設業		15
	運送業		11
	卸売業		32
	小売業		29
	サービス業		36
	その他		1
計		124	
総数		183	

参考資料

B S I

(1) 概判断

(単位：%，ポイント)

	全産業					製造業					非製造業				
	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI
2020年10～12月実績	23	52	25	△2	△16	26	52	22	4	△10	21	53	26	△5	△20
2021年1～3月々	18	50	32	△14	△11	16	46	38	△22	△18	19	52	29	△10	△6
4～6月々	13	63	24	△11	△6	16	65	19	△3	0	12	61	27	△15	△7
7～9月々	8	63	29	△21	△16	5	65	30	△25	△17	10	61	29	△19	△16
10～12月々	20	63	17	3	△11	26	53	21	5	△10	18	66	16	2	△13
2022年1～3月々	14	57	29	△15	△12	11	58	31	△20	△16	15	57	28	△13	△10
4～6月見込み	14	51	35	△21	△16	7	57	36	△29	△25	17	48	35	△18	△11
7～9月予想	10	59	31	△21	△26	10	58	32	△22	△30	10	60	30	△20	△24
10～12月々	14	66	20	△6	7	10	68	22	△12	3	15	66	19	△4	10

(2) 売上げ判断

(単位：%，ポイント)

	全産業					製造業					非製造業				
	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI
2020年10～12月実績	45	32	23	22	2	57	22	21	36	7	40	36	24	16	△1
2021年1～3月々	27	32	41	△14	△1	21	23	56	△35	△10	30	37	33	△3	3
4～6月々	30	40	30	0	5	42	34	24	18	15	24	43	33	△9	0
7～9月々	23	39	38	△15	△13	23	33	44	△21	△13	23	42	35	△12	△10
10～12月々	40	40	20	20	0	57	26	17	40	10	32	47	21	11	△5
2022年1～3月々	28	37	35	△7	6	30	29	41	△11	14	27	41	32	△5	1
4～6月見込み	29	36	35	△6	△1	31	30	39	△8	△11	28	39	33	△5	3
7～9月予想	22	48	30	△8	△11	29	37	34	△5	△14	19	54	27	△8	△10
10～12月々	27	55	18	9	29	31	44	25	6	37	26	59	15	11	27

(3) 経常利益判断

(単位：%，ポイント)

	全産業					製造業					非製造業				
	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI
2020年10～12月実績	41	34	25	16	△2	50	24	26	24	5	37	38	25	12	△3
2021年1～3月々	28	37	35	△7	△1	28	28	44	△16	△6	28	41	31	△3	0
4～6月々	26	43	31	△5	2	35	39	26	9	13	21	45	34	△13	△2
7～9月々	20	43	37	△17	△12	18	39	43	△25	△19	21	45	34	△13	△12
10～12月々	30	45	25	5	△13	47	22	31	16	△5	23	55	22	1	△13
2022年1～3月々	24	41	35	△11	△6	26	33	41	△15	△5	22	46	32	△10	△7
4～6月見込み	21	39	40	△19	△12	22	27	51	△29	△25	21	44	35	△14	△3
7～9月予想	17	47	36	△19	△24	19	28	53	△34	△41	16	56	28	△12	△13
10～12月々	20	58	22	△2	15	24	44	32	△8	14	19	63	18	1	15

(注) B S I = (好転) - (悪化)